

平成28年度 第1回 山梨県文学館協議会 会議結果記録

日 時： 平成28年10月6日(木)

場 所： 県立文学館研修室

参加者：

委員 渡邊慈仁、堀内美恵子、蔦木雅清、向山文人、植松裕二、新橋靖典
池田尚隆、小菅健一、廣瀬孝嘉、早川史香、日向俊子、乙黒幸江
清水千春

県教育委員会学術文化財課 柳原総括課長補佐、原主事

県文学館 三枝館長、上島副館長、高室学芸幹、大関総務課長、保坂学芸課長
飯沼資料情報課長、望月総務課主幹、中野学芸員(学芸担当リダー)、
梶原主幹・教育主事(教育普及担当リダー)、
水上副主幹(資料情報課リダー)

指定管理者 岩野SPSやまなし支配人、金原SPSやまなし副支配人

議事

- (1)平成27年度事業報告等について
 - (2)平成28年度事業報告及び予定等について
 - (3)入館者増に向けた取り組みについて
入館者目標の設定
目標達成に向けた今後の取り組み方針
 - (4)その他
- 司会 上島副館長

議事録

県教育委員会学術文化財課総括課長補佐挨拶

会長挨拶

館長挨拶

事務局職員紹介

議事(議長は規定により会長が務めた)

事務局から会議資料により、議事(1)~(2)を説明

会長

ただいま、事務局から、学芸、教育普及、資料情報、指定管理のSPSやまなしの事業について説明がありました。改めて聞きますと、いろいろと工夫していることが

分かります。順不同でも結構ですから、質問、意見、感想などありましたらお願いします。

C委員

文学館が努力していることには敬意を表しますが、ひとつ気になっていることがあります。恥を忍んで言いますが、入り口右側にある、龍太先生の文学碑の文字が草書で読めません。同様の方が多いと思います。先生の経歴については、下の方に石に刻まれた説明がありますが、碑文についても、解説のようなものがあればよいと思いました。

事務局

あの文学碑は、建設実行委員会から県に寄付していただき、現在は文学館の文学資料として位置づけられています。おっしゃるとおり、碑文だけで読み解くのは難しいと私たちも考えまして、碑の近くではなく、館エントランスに、A4サイズ1枚の説明資料を用意しました。これは龍太碑だけでなく蛇笏碑もあわせて、写真と文とその解説を記しています。ご発言の趣旨としては、碑の前ですぐ分かるような工夫ができないかということですから、検討させていただきます。

館長

今、学芸幹から説明したとおり、あの碑は建設委員会が作って県に寄贈されたので、作成には県は関わっていないのです。どのような句を使うとか形はこのよなどの説明は、私は受けたのですが、説明を刻んだ石も用意されて、その中には碑文を活字にしたものもあっていました。ところがそうではなかったため、建設委員会の方に、どうにかならないか聞いてみました。すると、蛇笏碑も説明の中に碑文は入っていないので、これに倣ったとの回答でした。

あれだけの名句なのに読めなくて、これはなんだろう、いぶかしい気持ちで、皆さんが立ち去るのは、館長としてはとても残念です。

建設委員会は蛇笏碑に倣ったやり方を変える事はないと言いましたが、蛇笏碑を作った時代と今は文学的環境が違いますから、そこは何とかして欲しかった。では、これからどうするかですが、現在の対応は、高室が説明したとおりですが、やはり碑の前で分かるようにしたいと個人的には思います。

C委員

ありがとうございました。もう一点、これは御礼ですがよろしいでしょうか。

私どもの知っている方で、動けない歩けない話せない方がいて、20歳の頃に発病して、それ以降は、部屋の隅から動けない、生きる希望も無い生活をしていました。

その方が実は若い頃の初恋の思いとか、生きる希望があったころの思いとかをせつせと短歌に書いていました。みみずのはったような字で書いた作品を読んだ私の友人が、同好会で発表できないか、持ちかけましたが、お金をかけるとか名前が出るのは家族に申し訳ないとのことでした。友人がワープロに打ち込んで私のところに持ってきたので、恥をしのいで、三枝館長にお見せして、批評をいただきたいとお願いしたところ、文学館に蔵書するといってくださいました。大変うれしく思い、作者にも伝えました。改めて感謝申し上げます。

会長

その他、何かございますか。

E 委員

ポケモンGOが社会現象のようになりまして、ここに多くの方が来ることはいいことかもしれませんが、一方で夜間の警備はどうされたのか、武田神社でも未成年が夜間に徘徊することが問題視され、我々もニュースなどで報道していますが、もし夜間警備がないとすれば問題かと思しますので状況をお知らせください。

S P S 支配人

夜間の警備は、ポケモンGO以前から実施しています。時間を決めて警備員が巡回して異常がないか確認しています。ポケモンGOが始まって、お子様同士で来園する方も多く、気になった場合は、警備員や私たち職員もお声がけしていますが、これまで特に問題は起きていません。

N 委員

ポケモンGOに関してですが、警備のことではなくて、25年度の「かいけつゾロリ展」の時にもお話ししたのですが、かいけつゾロリは集客の点からは有効だったと報告を受けましたが、ポケモンGOに関しては評価が分かれていて、文学館でやるべき価値があるものか、集客的には効果があるとしても内容的にいかがか、あえて事業として実施してよいか疑問を持ちました。

《N委員は、文学館がポケモンGOを誘致しているように誤解していると思われたため、ゲーム開発者が一方的に、芸術の森公園をポケモンGOのエリアに設定したこと、警察とも連携して対応を検討していること、問題があればエリアからはずすよう要請する考えであることを事務局から説明した。》

会長

ポケモンGOについては、各所でいろいろと問題にもなっていますが、ここでは特に大きな問題もなく、沈静化してきたので、見守っている状況ということでしょうか。その他に何かございますか。

D委員

北杜夫展と、先ほど説明のありました、オオムラサキセンターの昆虫展は、意表をついたコラボレーションで、私も両方行きましたが、連携先が文学館的ではないところだったのが大変面白かったです。今後の企画展、特設展でも連携先として参考にしたいと思いました。

もう一点質問です。資料の15頁に、昨年度の事業で協力会の読書会の報告がありますが、年に10回ほどの開催で、1回あたりの参加者が10人くらいで、少ないなと思いました。また勝手な意見ですが、取り上げる作品が、石原慎太郎「太陽の季節」、芥川龍之介「羅生門・鼻」というのは古いなとも思いました。村上春樹や、県内であれば辻村深月とか新しめの方がよいと思いました。

会長

ただいまの御意見は、意表をつく企画は大変おもしろかったが、定番のものはあまり面白くないといったものでしょうか。事務局いかがですか。

事務局

読書会につきましては、協力会のボランティアさんに運営をお願いしています。取り上げる題材についてもお任せしていますが、企画展に関連した題材や、やまなし文学賞の受賞作を取り上げてもらうこともあります。村上春樹や、辻村深月さんを取りあげたことがあります。御意見を協力会にもお伝えして、ともに読書会が活性化できるように努めていきたいと思えます。

E委員

ただいまの読書会については、明日の山梨新報のリレーエッセーに、協力会会長の鬼丸智彦さんが、どんな活動をしているかなど書いています。私は関連会社にいるので、1日早く見ることができました。よろしければ参考までに読んでください。

会長

三枝館長が館長に就任されたときだったと思いますが、文学はゆったりとした時間を含んでいる領域だと、世間的な能率の尺度では計れない奥深さがあるとお話になったと思います。文学館への客寄せということと、文学を読んで人生に刺激を受けるということが必ずしも一致しないということもあり、難しいというか、文学館の本質的

な部分がどこにあるか考えていくことかと思えます。他にいかがでしょうか。なければ、議題1, 2について承認としてよろしければ、拍手をお願いします。

《出席委員全員が拍手》

では承認されたものとして、次の「3 入館者増に向けた取り組み」について、この議題が追加された理由も含めて、事務局から説明してください。

事務局

《以下の内容を説明》

- ・事前の資料等送付後に議題が1つ追加となり、混乱させて申し訳ない。
- ・「入館者増に向けた取り組み」は、これまでも盛んに議論されてきた永遠のテーマ。
- ・これを今回あえて議題のテーマとした理由は次のとおり。
- ・資料8頁のとおり、文学館展示企画の入館者は長期低落傾向。
- ・来年度の予算編成に手を付ける時期となり、教育委員会の中でも問題視されている。
- ・文化施設といえども、入館料の増加を図る経営的な視点も必要との指摘がある。
- ・文学館は展覧会だけではないが、昨年12月策定の「ダイナミックやまなし総合計画」に、教育普及事業に関しては、参加者を5年間で5%増と計画済み。
- ・そこで、今回、展示場入場者増を図ることを、改めて大きな課題として取り上げた。
- ・資料26頁をご覧いただきたい。
- ・目標値は、教育委員会で定めた。知事にも説明済み。文学館だけでなく美術館、博物館、考古博物館も設定。
- ・平年ベースと比較して、常設展は約5%、企画展はの概ね1割増として来年度から取り組んでいく
- ・新たな施策、新規事業、予算対応が困難であり、既存の取り組みを、にまとめた。これらに関する意見、他に有効なものがあれば提案をいただきたい。

会長

経営の視点を持って、目標値を設定して努力するということでした。ただいまの説明に対して意見があるでしょうか。

L委員

ひとつ提案です。山梨県内には北杜市とかで絵本を展示している施設が多くあるので、それらとタイアップして、児童文学で展示会を企画してはと思いました。子供が来ると親も来るということで入館者増に繋がると思えます。

今、若い人の文学離れが大きくて、館長さんの短歌教室はとても効果があると思いますが、子供向けの展示会も、すぐには効果が出ないかもしれませんが、教育普及的な意味合いも込めて将来的な効果を期待して実施する意味があると思います。

もうひとつ、長野まゆみさんが、やまなし文学賞の審査員になったことは、若い人への好影響があると思います。辻村深月さんといっしょに新しい文学の形をヤングアダルトの皆さんに見せられるような、講演会でもいいので企画できたらいいなと思います。

事務局

ありがとうございました。おっしゃるとおり、八ヶ岳南麓に多くの館があることは承知しています。これまでもこれらの館にご協力いただいた展示会を何度か実施しています。今のところ、絵本を扱った企画展の計画はありませんが、ご提案の内容について検討してみます。

今年度から、長野まゆみ先生に、やまなし文学賞の審査員にお入りいただいたことで、応募者の顔ぶれが変わるかもしれないと考えています。このご縁を活かして、館の活動にもご協力いただけないか考えてまいりたいと思います。

M委員

入館者目標が設定されたということですが、指標を作って取り組むということは、職員にとっては、ある意味マイナスに考えがちですが、博物館法の9条にも規定されているとおり、評価を行い結果を改善に結びつけるのは重要です。その指標ですが、青森近代文学館では利用者の満足度を数値化し評価しています。文学館の評価を数値化するのはとても難しいと思いますが、利用者の満足度は改善につなげやすいですし、県民への説明も分かりやすいと思います。予算の資料としても使えるのではないのでしょうか。

目標値のようなものは県が設定して、館はそれを達成しなければいけないということで、先ほどの説明にもありましたが、沢山の取り組みをされていて、少ない職員で残業もしないといけないかと心配しますが、マイナスととらえずに、有効的に改善につなげられる指標の設定を考えてはどうかと思いました。

《記録者註：以下3行は博物館法9条の内容》

(運営の状況に関する評価等)

第九条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

会長

文学館ならではの評価の指標を作ってはとの応援の御意見だったと思います。他にどうでしょうか。

N委員

報告を聞いて、本当に沢山の取り組みをされていて、すごいなと思いました。それでもなお、もっと集客し、県民に利用してもらうかを考えたとき、教育普及事業の報告を見ると、学校によって利用の頻度に大きな差があるのが気になります。これは先生が文学館を知っているか、知らないかにもよると思います。特に若い先生には知らない方が多いと思いますので、教師の初任者研修のプログラムの中に文学館での研修を入れてもらって、そうすると選択するかどうかにもよりますが、選択すると強制的に受講しなければならないので、多くの先生に知ってもらえる、そうすると生徒も知ることになる、親も知ることになると繋がると思います。こんな事も次年度以降に検討していただければと思います。

P委員

ただいまの意見に関連ですが、資料の18頁を見ますと、確かにいろいろな学校が来ていますが、数からするとまだまだだと思います。

学校への働きかけとして、校長会での説明をやっていただけていますが、校長の中にも感心を持つ人と、全然事務的で、聞いても下に降ろさない人もいます。出前授業とか移動文学館を教育課程に組むことができるのは、図書館主任会議とか国語の強化サークルという研究団体があるので、そういう所に出向いて説明した方が効果があるかもしれません。

もう一点、北杜夫展と昆虫展とのコラボも面白いと思いましたが、「ぼくのおじさん」が映画化されて、11月3日から公開と聞きました。これがイオンモールとかで上映されて、観た人が全く文学に興味がなくても、原作に関心を持って文学館に企画展を見に来てくれるそんなコラボができればと思いました。

《記録者註：「ぼくのおじさん」はイオンモール内のTOHOシネマズ甲府で11月3日より公開予定》

会長

集客のためには、教師をターゲットにしてはという御意見でした。校長会、教頭会、他にもいろいろな団体があるので、働きかけて、広がりが出てくると思います。事務局いかがでしょうか。

事務局

御意見ありがとうございます。資料の15頁を見てください。外部教育研修ということで、総合教育センター共催研修を始めて3年目になります。三枝館長の短歌講座などを実施しました。本年度も11月に初任者研修を予定していますが、先般、とてもうれしいことがありました。玉穂中学校の昨年度の初任者研修を文学館で受けた先生が、校外授業に生徒を50人ほど連れてきて、当初の予定では、美術館のみだったのが、都合で1時間の空きができて、文学館を見学したいと申し出てくれました。急な話でしたが普及担当で対応しました。このように教師が文学館を知っている、体験していることが重要だと思いました。

先ほど清水先生から話がありましたが、昨年度も本年度も、5、6月の小中高の全ての校長会に出席させていただき、教育普及事業について説明、お願いをしました。資料の15頁にもありますが、先生方は忙しいので、夏休みに来てもらい、展示をみってもらうことで普及活動での利用者が増えているという状況です。

その他に、移動文学館、アウトリーチという事業がありまして、今のところ、石川啄木セット、飯田蛇笏・龍太セット、村岡花子セット、本年度は宮沢賢治セットを新たに作りました。文学館に来るのは大変な地域もありますので、昨年例では、秋山、小菅に持っていきました。

会長

夏休みに、総合教育センターでいろいろな研修が開かれますので、その中にコンスタントに組み込んでいただくのも有効かと思います。

B委員

資料18頁の「(14)小・中・高等学校教育課程対応(展示解説)」についてお尋ねします。これは文学館にくと展示の解説をしていただけるということでしょうか。事前の申し込みが必要でしょうか。

事務局

この事業は、5月頃に中学校の校外授業という活動が多く、生徒だけで各地の施設を訪問するのですが、事前に学校の方から連絡をもらい、私たちの方で展示室の解説をしたり、常設展では「わたしはだあれ?」というクイズ形式の教材を使ったり、企画展・特設展では、チャレンジクイズに挑戦してもらい、缶バッチをプレゼントするなどの内容となっています。

D委員

基本的なところで教えていただきたいのですが、入館者の目標は、本年度に設定して、何年度までに達成といったことが決まっているのでしょうか。

学術文化財課主事

知事からの指示もあり、今年度に設定しました。いつまでにと言うことではなく、目標として、来年度から達成できるよう目指していくこととしております。来年度というのも大変かとは思いますが、2020年にはオリンピック・パラリンピックもありますので、そのようなところへ向けての目標と考えていただければと思います。

G委員

何回かこの協議会に参加していますが、このような形で、取り組み内容を見たのは初めてで、これはがんばっていただきたいと思いました。

その中でも、いつも言うのですが、古典が取り上げられないのが残念です。

意外にうれしかったのが、資料の16頁にある、年間文学講座で、山梨大学の長谷川千秋先生が、「裏見寒話」講座をしていたことです。古典といっても平安時代とかでは、山梨県に関わるものはないのですが、江戸時代くらいになると、山梨県で書かれて、山梨県の事を書いたものがいろいろあります。長谷川先生もそれを取り上げていますが、注釈がないので毎回大変だと言っていました。こういうところに可能性があるのではないのでしょうか。山梨県の事を書いた文献は、近い時代では意外と残っていますが、それを読みこなして話せる人を探すことから始めなければならないのですが、古典と現代を繋ぐ可能性があるのではないかと思います。参加人数を見ると、県内にも結構興味を持っている方がいるので、そんなところも考えていただければと思います。

会長

可能性があるということで、お褒めの言葉でした。こんなふうなものを発掘しながら、可能性を探れば、多くの愛好家に興味を持ってもらえるのではとの御意見でした。他にいかがでしょうか。

C委員

山梨文芸協会ですが、私たちの講演会は年4回、こちらの講堂を借りて開催しています。その他にも研修室をお借りして打合せを行っていますが、そのような利用も入館者にカウントされているのでしょうか。

例えば、協力会とのコラボで、前回、山梨学院大学の大神田先生にフランケンシュタインに関する講演をいただきましたが、その受講者も文学館の実績になると思うのですがどうでしょうか。

事務局

文芸協会や他の文学団体に当館の施設をご利用いただいています。その状況は資料では7頁の「施設利用者」のところに施設毎に利用者の人数を集計しています。これらは文学館の実績としてカウントさせていただいております。

H委員

入館者増とのことですが、文学館に来る人を増やしたいのか、移動文学館など出向いた事業の参加者まで含めた数を増やしたいのかどちらでしょうか。

学術文化財課主事

展示会を観覧する入館者の人数です。

H委員

すると来館する人ということですね。きつい言い方になりますが、資料にある、「工夫する」とか「充実する」とは、具体的にどうするのか書いていただくと、こうした方がいいとか意見が言えると思います。

ここに書いてある、「常設展」「企画展」「講演会」「ギャラリートーク」「ワークショップ」は今までもやってきたことの延長上であって、「関連イベントの実施」が唯一新たな方向性かなと思います。であれば、関連イベントも、今までにはないアイデアで展示会に関連したものを毎回やっていくのか、あるいはやれるもんが限定されるのであれば勢いが全然違ってくると思います。

文学館は開館27年で安定して知れ渡っているのに、新しい切り口を示せないと興味を持ってもらえない、今まで見せたものであっても、見せ方が違うとリピーターが見に来てくれることがあると思います。

今、アニメーション映画で「君の名は」というのがヒットしていますが、すごい人は40回50回観に行きます。わたしの知り合いでも30回観た人がいますが、どうしてリピーターがでてくるのか、リピーターを作るには、今までの固定化したやり方ではなくて、見せ方を変えられるか、つまり、文学館に行かないと見られないライブ感を作られるかが当面の課題だと思います。

ただ単に、本、原稿、写真を見せるのではなく、もうちょっと揺すってもいい、私はこの委員になってからずっと言っているのですが、文学と音楽とか、文学と美術とか、文学と映画とか、本来別なものが結びつく面白いという事に関して、これは私の恩師で、やまなし文学賞の選考委員に就任された中島国彦先生が授業の中で話してくれました。

美術館が近くにあるのだから、さらに図書館も巻き込んで、資料の20頁に、大手旅行会社との連携とありますが、こうすれば、旅行会社が企画できると思います。単に文学に関したものを見せるのではなく、山梨のここに来れば、文学館と美術館と図

書館が関係した面白いも見られるでないと旅行会社も乗ってくれないと思います。

それと、キャッチコピーのことも書いてありましたが、コピーは言葉ですが、今人が関心を持つのは、熊本の「くまモン」のようにキャラクターです。ビジュアルに訴えるアイコンとなるものが重要です。

資料には、いろいろな事業の紹介がありますが、出張授業のカタログのようなもの、私たちも、大学の教員が高校に出向いてどのようなことができるか資料を作りますが、そういうものを作って、大学の先生が文学館に来て授業をしてもいいと思いますし、文学館がハブとなって、美術館、図書館だけでなく大学も巻き込んで、他ではやっていないことをやる、文学館は何か新しいこと、面白いことをやっているという、ものは変わらないけど、見せ方を変えることでリピーターは増やせると思います。

文学は若い人がなかなか読まないといいますが、大学の授業で昭和初期の作品を取り上げると面白いということもあって、だから見せ方だと思いますし、展示会の企画でも、どのような時代背景の中の出来事かを分かりやすくしたり、変わった切り口での展示をするとか、イベントと絡めるとか、前にも申し上げましたが、文学館には講堂がありますから、講演会も映画もコンサートもできます。単に文学の展示だけでなく、先ほどライブ感と言いましたが、組み合わせはいろいろできると思いますので、お金を出せば一番いいのですが、予算も苦しいので知恵を出すしかないと思います。

会長

ありがとうございました。見せ方を変える、そのためにどのようなネットワークを作るか、いろいろなところと一緒にといった御意見だったと思います。

F委員

入館者増の取り組みの資料を拝見して、随分がんばっているなという印象を持ちました。県民の一人としてもありがたいことだと思いました。これまでの皆様の意見のとおり、文学性の高いテーマを取り上げるのも重要ですし、一方で一般に親しみやすいイベントや企画を実施するのも大事でバランスかと思います。

予算や人員にも限りがあるので、できることできないことありますが、社会の動きによりタイムリーに、文学としての関連性を見出す事が重要かと思います。映画がヒットした時に映画そのものではなく、映画の中で何か文学と関わったものがないかとか、芥川賞受賞で「コンビニ人間」がベストセラーになっていますが、これが取り上げられないか、それと、この後まもなく発表されるノーベル文学賞も関連を見出せるか注視していく必要があると思います。若い世代はインターネットで、休みの日にはどこに行こうかを決めることが多いので、そのような時に文学館のホームページがひっかかることができるかなども検討していただければと思います。

E 委員

入館者増に向けた取り組みに、我々マスコミがどう関わっていけるかですが、マスコミが取り上げるのは新しいことでなければならぬ、従来の事ではニュース性がなくターゲットにならないので、そういった所を考えていただきたいと思います。

それと、キャッチコピーについては、県民を巻き込んだ形で大々的にやっていただきたいと思います。前任の副館長は「週末は山梨にいます」の観光キャッチコピーを考えましたが、そのように大がかりに話題になるものであればマスコミも関わっていけると思います。

先ほどから映画の話題が出ましたが、閲覧室の今後の企画で、芥川賞・直木賞を取り上げるとのことですが、受賞作には映画化されたものも多く、直木賞受賞の浅井リョウの「何者」が今度映画化されてまもなく公開と聞いています。ですから、こういった機会にタイムリーな展示をすれば話題になると思います。なぜ直木賞を取れたのか専門家の意見が聞ければありがたいですし、文学館に行けばより詳しい情報が得られるということになれば入館者増にも繋がると思います。

もう一点すみません。私たちのUTYのテレビ番組で「ニュースの星」というのを月金で夕方にやっていますが、その中に4月から「文学散歩」というのを毎月一回木曜日にやっています。これまでに、館長の弟さんの三枝浩樹先生や俳句の井上康明先生にご登場いただき、先週は廣瀬会長にも酒折連歌で出演していただきました。皆様にも文学に関して何かありましたら連絡いただければ取り上げていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

会長

予定時間も過ぎてしまいましたので、意見も出尽くしたということで、3号議案を承認ということでよろしいでしょうか。

< 出席委員が、拍手をもって承認 >

会長

議事の最後の「その他」ですが事務局から何かありますか。

事務局

特にありません。

会長

では、これを持ちまして、議事を終了とさせていただきます。ご協力ありがとうございます

ございました。